

令和5年度 佐久市立中学校の運動・文化部活動の地域移行に向けた  
アンケート調査結果について（概要）

令和6年3月  
佐久市教育委員会スポーツ課

## 1 目的及び概要

佐久市立中学校の部活動地域移行に向け、関係する児童・生徒・保護者・教職員が部活動に対してどのような「課題・不安・意見」として抱えているか、現状を把握するためアンケート調査を行った。

なお、長野県教育委員会においても同様の調査が実施されている。（令和5年6月～7月実施、令和5年9月公表）このことから調査項目の重複を避けるため、佐久市独自に調査を要する項目を中心に調査項目を選定したところである。

ついでには、長野県教育委員会が実施の調査結果並びに本調査結果を基に「佐久市立中学校運動部活動の地域移行協議会」等で分析・協議を重ね、本市における中学校部活動の地域移行を検討する。

## 2 調査対象

- (1) 佐久市立小中学校の児童生徒
- (2) 上記対象の保護者
- (3) 佐久市立中学校に勤務する教職員

## 3 調査対象数及び回答率

（単位：人・％）

|          | 対象         | 対象数   | 回答数   | 回答率  | 備考           |
|----------|------------|-------|-------|------|--------------|
| 児童<br>生徒 | 小学5・6年生 ※1 | 1,690 | 1,526 | 90.3 |              |
|          | 中学1・2年生 ※1 | 1,657 | 1,164 | 70.2 |              |
| 保護者      | 小学5・6年生 ※2 | 1,690 | 1,237 | 73.2 |              |
|          | 中学1・2年生 ※2 | 1,657 | 1,106 | 66.7 |              |
| 教職員      | 中学校        | 194   | 134   | 69.1 | 栄養教諭・養護教諭を除く |
| 合計       |            | 6,888 | 5,167 | 75.0 |              |

※1…対象者数は令和5年度学校基本調査の結果を基準とした。

※2…児童・生徒1人を1世帯として対象者数とした。

4 調査期間 令和6年1月12日（金）～2月9日（金） 約4週間

5 調査手法 Web（QRコード・URLの配信）を利用したアンケート調査及び回収

## 6 調査結果

- (1) 公表時期 令和6年3月（予定）
- (2) 公表場所 佐久市公式ホームページ 等

## 7 調査実施主体

佐久市教育委員会 社会教育部 スポーツ課  
(佐久市立中学校運動部活動の地域移行協議会 事務局)

## 8 留意事項

- (1) 各調査結果の図表には、原則、小数点以下1位までを表示する。また、複数選択の設問の場合は回答数を分母としている。  
そのため、合計は必ずしも100%とならない。
- (2) 記述については、一部抜粋し掲載している部分もある。
- (3) 図において、質問・回答項目を一部省略・加工し表示している箇所がある。

## 9 本調査における字句について

### (1) 小学生5・6年生及びその保護者

クラブ活動の定義…「放課後や休日に行われるスポーツ少年団・クラブチーム(スポーツ)・スクール・ピアノ・書道・合唱・吹奏楽など」のこと

### (2) 中学生1・2年生及びその保護者

クラブ活動の定義…「学校部活動以外のスポーツや文化活動(スポーツ少年団・クラブチーム・音楽系活動・各種スクール等)」のこと

佐久市立中学校の運動・文化部活動の地域移行に向けたアンケート調査結果  
～小学5・6年生～

【調査の方向性】

問1 放課後や休日のクラブ活動の参加状況

問2 中学校の部活動について

【調査結果】

問1

- 放課後や休日にクラブ活動や習い事に参加している児童は6割以上。活動も平日・休日の両方との回答が多い。休日の過ごし方としてクラブ活動が定着していると読み解ける。
- クラブ活動の種類は市立中学校の部活動にないものも多い。小学生時代のクラブ活動が中学校部活動への接続になっているとは限らない状況がわかる。

問2

- 8割以上が部活動の所属を希望しているが、中学入学前から部活動以外（クラブチーム等）に所属を考えている児童がいる。（希望しない回答者のうち3割程度）
- 部活動でやってみたい競技・活動は、「テニス」や「バスケットボール」が上位につけた。「バドミントン」「ダンス」等の市立中学校の部活動にはない競技への希望が多い。  
また、「サッカー」「バレーボール」「野球」といった団体種目への希望が低く、個人競技や多様な種目への志向が確認できた。
- 部活動への期待として「体力・技術の向上」「勝利・良い成績」を求めるよりも、「楽しさ」や「友達関係」を重視する傾向がみられる。

【調査分析結果】

中学入学後の部活動に関心を持つ児童は8割以上であるが、参加を希望しない児童の理由として「やりたくない」との回答が多いことから、児童の部活動に対する考え方が二極化を示している。

また、クラブ活動で現在行っている競技・活動が中学校部活動にないことで接続とならず、競技・活動の見直しをせざるを得ない児童が多いことも判明した。従来の部活動（競技・活動）の種類体制では対応できない状況であり、活動環境を整備するにあたって検討していく必要がある。

佐久市立中学校の運動・文化部活動の地域移行に向けたアンケート調査結果  
～中学1・2年生～

【調査の方向性】

- 問1 放課後や休日のクラブ活動の参加状況
- 問2 部活動について
- 問3 クラブ活動について
- 問4 部活動とクラブ活動について
- 問5 未所属について
- 問6 部活動の地域移行について

【調査結果】

問1

- 回答者の9割以上が部活動・クラブ活動に所属し、放課後や休日に活動をして日々の生活を送っている。

問2

- 希望どおり部活動に所属している生徒は約8割。希望どおりではないとの回答者からは「バドミントン」を希望する件数が最多。
- 約6割が部活動の競技・活動は中学校入学後に始めたと回答している。小学5・6年生対象の調査結果にある、学童期の競技・活動経験が中学に接続していないことはこの結果にも反映している。
- 部活動継続のための合同部活動（複数校）は「人数が少なければ仕方ない」「合同で活動したい」と肯定的な意見が約8割おり、部活動継続を望む意見である。

問3

- 学校部活動以外のクラブ活動（クラブチーム）では「バスケットボール」が最多。
- クラブ活動に所属理由として「学童期からの継続・部活動よりも専門的な指導」が挙げられた
- 活動時間が部活動に比べ長くなる傾向が見受けられる。

問4

- 部活動とクラブ活動を両立する理由は「それぞれの活動の基礎練習・体力づくりのため」の割合が高く、両立による相乗効果を期待するものであった。

問5

- 部活動に所属しない理由では「やりたくない」「やりたい部活動がない」との意見が多い。学童期に「やりたくない」と回答した傾向との関連性を調査する必要がある。

問6

- 「部活動の地域移行」の情報不足が顕著であった。
- 休日部活動への参加は肯定的である傾向と分析できる。

【調査分析結果】

合同部活動・休日部活動の参加・指導者の属性等を分析し、地域移行後の部活動が「目指す姿」について検討が必要と考える。特に、調査結果には生徒が部活動を継続したいと考えが現れている。希望者が多い競技の環境整備などについて、検討の余地がある。

佐久市立中学校の運動・文化部活動の地域移行に向けたアンケート調査結果  
～小学5・6年生の保護者～

【調査の方向性】

- 問1 放課後や休日のクラブ活動の参加状況  
問2 部活動の地域移行について  
問3 保護者の経験・指導について

【調査結果】

問1

- 活動状況等については、小学校5・6年生対象の調査結果と同じ傾向であった。
- 送迎面では保護者の自家用車による送迎(自宅より15分圏内)が担っている
- 金銭面では5,000円以内の月謝との回答が多いが、遠征等の年間経費は競技・活動の種類比較検討は難しい。

問2

- 「部活動の地域移行」を6割以上が認知され、地域移行後の部活動への参加も肯定的である。
- 既存の部活動の競技等のほか、地域移行後は「プログラミング」「バドミントン」「ダンス」といった競技・活動に対する希望が高く、現在の活動を継続させたい意向が確認できる。
- 地域移行後の保護者負担では、クラブ活動の月謝と同じく5,000円以内が許容範囲との回答が8割以上、送迎面では自宅から概ね片道30分以内であれば約8割が送迎可。
- 送迎できない理由として休日に仕事があるとの割合が高い。
- 地域移行後の部活動には専門的な知識・資格を持った指導者の配置を希望している。
- 合同部活動で部活動が継続できる場合、他校の会場でも参加希望が約7割であった。
- 自由記述の意見は「保護者負担・指導者確保・情報提供・学校部活動の維持」が多数

問3

- 保護者の部活動所属経験は、現在の中学生と比較し1割程度高い。部活動未所属の割合は概ね同率であり、部活動以外で活動する「場」は増えたことがわかる。
- 部活動指導が可能である保護者は7%程度にとどまり、指導者確保にはつながりにくい状況である。

【調査分析結果】

「部活動の地域移行」の認知は6割にとどまっており、今後正確な情報周知が必要である。

保護者負担は一定程度協力を得られるものと推測はできるが、自由記述では負担（特に送迎に対する負担）を避けたいとの意見が多く寄せられた。

また、保護者負担をするのであれば、より専門的で高度な指導や、ハラスメント等の研修を受けた指導者による指導を受けたいとの意見も多く寄せられた。

現在の学校部活動の継続を望む声、休日部活動は不要との声も少なからず寄せられた。

中学進学を控えた児童の保護者と情報の共有をしながら、部活動の地域移行を検討する必要がある。

佐久市立中学校の運動・文化部活動の地域移行に向けたアンケート調査結果  
～中学1・2年生の保護者～

【調査の方向性】

- 問1 学校の部活動やクラブ活動の参加状況
- 問2 部活動の参加状況
- 問3 クラブ活動の参加状況
- 問4 部活動の地域移行について
- 問5 保護者の経験・指導について

【調査結果】

問1

- 中学1・2年生の回答と方向性は同じ

問2

- 部活動の活動日数は4～5日が多いところ、活動時間では平日2時間以上、休日3時間以上と活動しているとの回答も見受けられる。
- 部費（月額）は3,000円未満の割合が高く、部活動が地域移行した後に保護者の負担を必要となった場合、理解を得ることがハードルになることが想定される。
- 保護者が部活動に求めるものとして、送迎が必要ない点や人間関係の構築について期待していることが確認できた。

問3

- クラブ活動は技術向上や専門的な指導を受けるため参加していることが考えられる。
- クラブ活動の月謝は部活動よりも高額となっている。

問4

- 小学生保護者に比べ部活動の地域移行について7割強が認知している。
- 地域移行後の部活動への参加については、「わからない」との回答が3割以上となり、情報不足から状況が分からず判断に苦慮している。
- 地域移行後の保護者負担（金銭面・送迎面）の許容できる範囲は、小学生保護者と同程度であり、送迎が難しい理由として休日の仕事との回答であった。
- 地域移行後の部活動には専門的な知識・資格を持った指導者の配置を希望している。
- 合同部活動で部活動が継続できる場合、他校の会場でも参加希望が約7割であった。
- 自由記述の意見は「保護者負担・指導者確保・情報提供・学校部活動の維持・活動の方向性」が多数

問5

- 小学生の保護者の回答と回答の方向性は同じであった。

【調査分析結果】

回答の方向性は、小学生保護者と類似した結果となった。

部活動の地域移行がこれからどのように進められるのか、現在の中学1・2年生は当事者の年代であることから、不安を抱える保護者は多く、情報を求める意見が多く寄せられた。小学生保護者と同様に、今後正確な情報周知が必要である。

佐久市立中学校の運動・文化部活動の地域移行に向けたアンケート調査結果  
～中学校教職員～

【調査の方向性】

- 問1 部活動の指導状況
- 問2 休日の地域移行に向けて
- 問3 平日の地域移行に向けて
- 問4 部活動の役割について
- 問5 部活動の地域移行について

【調査結果】

問1

- 運動部、文化部で8割以上の教職員が顧問を務めている。(市立中学校で計158名)
- 顧問を持つ部活動で未経験の教職員は約6割(未経験だが、指導経験はあるも含む)
- 平日、休日共に部活動指導に関わる時間が長く(指導以外の準備・引率等も含む)、部活動顧問の業務に負担を感じている状況が改めて確認された。

問2

- 部活動の地域移行後の休日に約8割の教職員が指導を希望していない。  
生徒の成長を間近に感じたいと、部活動指導を希望する教職員の回答もある。
- 希望報酬額は1時間あたり2,000円以上を求める声が多い。
- 指導を希望しない理由では、家庭や家族の時間を大切にしたいとの意見が多い。

問3

- 問2と同じく、部活動の地域移行後は平日も指導を希望しない教職員が約8割であり、指導を希望しない理由についても同様であった。
- 希望報酬額は、1時間あたり2,000円以上を求める声が多く、休日と同程度であった。

問4

- 「多様な経験により成長」「人間関係を構築」することが部活動の良い面として捉えられており、「仲間や顧問とのトラブル」「疲れにより勉強が疎かになる」といったマイナス面が懸念されている。

問5

- 部活動の地域移行後は「学校」から「地域クラブ」の活動・大会出場へ変化することについて約7割が賛成である一方、学校単位での活動等を望む声もあった。
- 部活動の地域移行について、「合同部活動」「働き方改革」の肯定的な意見が見られる。その一方で保護者が抱える不安に加え、「地域の指導者が確保できず、教職員が継続して指導を続ける可能性」「地域移行の受け皿となる団体の整備」を部活動の現場として不安を回答している。

【調査分析結果】

「部活動指導の負担の大きさ」がありつつも、生徒の成長を感じながら部活動指導に携わりたいと考える教職員が部活動を担っている状況が判明した。

これまで教職員が負担してきたものを、いかに地域が受け皿となるか競技・活動ごと部会などにより個別の検討が必要である。